

学校運営計画(4月)				評価(3月)			
学校教育目標	主体性を持って行動し、協働性とコミュニケーション力を生かして、夢に向かって粘り強くチャレンジする宗高生の育成						
学校運営方針	①校訓「質実剛健 自彊不息」を体現するため、学習活動・学校行事等に主体性を持って取り組む生徒を育成する。 ②教育改革に伴う変化に柔軟に対応するため、職員間の協働性と課題解決に向けた実行力を高め、本校の特色を生かした魅力ある中高一貫教育の基礎を構築する。 ③創立百周年記念行事を充実させ、生徒の自尊心と愛校心を高めるとともに、本校の新たな百年に向けた歴史の礎を築く。						
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具 体 的 目 標			B		
中高一貫校としての体制や行事、式典も定着しつつある。 今年度は、教育改革に伴う変化に対応した授業改善、学習指導に取り組むこと、また百周年記念行事を通して、生徒の自尊心と愛校心を醸成することを重点目標とする。	自彊不息の学習指導と授業改善	学習指導のあり方を工夫し、課題意識を持つ生徒を育成する。 大学入試改革に対応した学習指導の研究と実践に取り組む。					
	生徒指導と進路指導の一体的指導	「夢に向かって」を効果的に活用し、学習習慣の定着と生活の振り返りによる自己指導力を育成する。 生徒の主体性を尊重し、知識の活用や周囲との協働などの体験を通して、自己を考える生徒を育成する。					
	生徒の自尊心と愛校心を高める指導	百周年記念に位置づける様々な学校行事への取り組みを通して、生徒の自尊心を高め愛校心を醸成する。					
		同窓会の意義や役割に対する理解を深めさせ、母校や郷土・社会へ貢献する意識を持つ生徒を育成する。					
	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
教育推進領域	教育計画部	本校の教育目標を実現するための学習指導について研究する。	新学習指導要領および大学入試改革に対応した教育課程について、一部実施しながら検討を進めていく。 確実な業務の遂行と点検により、円滑な学習活動を支援する。	B	A	・新学習指導要領および大学入試改革に対応した教育課程の検討を進め、策定する。 ・成績処理システムの移行に伴う問題点の整理と解決を行う。 ・行事ごとの振り返りを行い、運営の問題点等を確認し、分掌内で連携を図る。 ・広報に関わる人員を確保しアピールポイントの合意形成を図る必要がある。	
		他の分掌と連携し、生徒の主体性に重点を置いた学習指導を支援する。	学年や教科と連携し、生徒の個別指導を支援する。 学年やキャリア教育部と連携し、生徒の探究活動が充実するよう支援する。	A	A		
	企画広報部	百周年に関わる諸行事を通し、生徒の自尊心や愛校心を醸成する。	中高の学年や分掌と連携し、百周年記念に関わる諸行事を充実させる。 PTAとの連携により、中高が一体になった魅力ある活動を実施する。	A	A		
			ホームページの更新をこまめに行い、内容を充実させる。 中学校へ丁寧に情報を発信し、学校訪問等の広報活動を強化する。	A	A		
		生徒育成部	規範意識が高く思いやりの心と高い志を持ち、目標達成に向けて挑戦する生徒を育成する。	日々の生活で明るく元気な挨拶ができ、自己責任能力や道徳心を持った生徒を育成する。	B		B
				交通安全指導により、安全に対する実践力を備えた生徒を育成する。 生徒会活動への積極的参加を促し、100周年記念行事の成功に努める。	B		A
部活動を通してリーダーを育成するとともに目標に向けて挑戦し続ける生徒を育成する。	A	A					
定期的保健・美化各委員会を開催し、積極的な広報活動により周知、徹底を図る。	A	A					
保健環境部	健康への意識を持った生徒を育成し、配慮を要する生徒へ速やかに対応する。	ケース会やいじめ・不登校対策委員会にSCに専門的アドバイスを求め、職員全体で配慮を要する生徒に対応する。	A	A			
		校内美化や節電に対し、高い意識を持って取り組む生徒を育成する。	美化コンクールを効果的に活用し、高い意識で清掃に取り組ませる。 節電やエコ活動に委員会主導で積極的に取り組ませる。	A	B		

進路支援領域	進路指導部	主体的に進路目標を立て、その実現に向けて行動できるよう支援を行う。	課外、補習の意義を明確にし、その活用を促す。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関大対応のための取組の体系化及び他分掌との連携</li> <li>・入試の多様化に関する情報の収集・共有と対応、及び生徒保護者への速やかな提供</li> </ul>					
			全学年の生徒が、自分の進路について考えられる資料室の整備・充実に取り組む。	B								
		高大接続改革に伴う入試制度に関する情報を共有し、即応できる体制を作る。	新出題傾向や、各大学の外部検定利用状況等の速やかな情報共有を進める	B	B							
			生徒情報の共有を主導し、学校全体で指導改善に取り組める体制作りを行う。	C								
	図書部	読書活動を通して、確かな事実を基にして主体的に思考する態度を育成する。	選書委員会を設置し、校内のニーズに沿った書籍の充実を図る。	B	B							
			探究活動の間立てや考察における図書館活用を積極的に促す。	B								
	読書活動に関心をもつ生徒の拡大を目指し、図書委員の主体的活動を促す。	「秋の図書館祭」などで、多くの生徒が図書館に足を向ける企画を工夫する。	B	B								
		各行事に対する、図書委員による広報活動を積極的に行う。	C									
学年領域	キャリア教育部	「学ぶ」ことの必要性や有用性の認識を向上させ、進路意欲の高揚を図る。	授業で学ぶことの面白さを実感し、主体的に取り組むことができる課題研究を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動の目標の明示と育成すべき生徒像の職員間での共有。</li> <li>・大学連携事業やイメージ教育の更なる工夫。</li> <li>・ICT機器や活動場所、時間割の工夫。</li> </ul>					
			イメージ教育等の教科横断的な授業を行い、多角的に思考する能力を養う。	B								
		キャリアに関する学習を主体的に行い、「働く」ことの意義についての理解を促進する。	大学等との連携事業を積極的に行い、社会で役立つ幅広い教養と高い知識を養う。	B	B							
			課題研究を通して郷土や社会の課題に触れ、それぞれの職業観・勤労観を養う。	C								
	第1学年	高校生としての基本的な生活習慣を確立し、自尊意識の高い生徒を育成する。	あいさつ、時間厳守、服装の整美、清掃について、主体的に取り組むよう指導する。	B	B			B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習量を確保するために「夢に向かって」を活用し、継続的に指導する。</li> <li>・それぞれの学力層に対応した指導の体制を整える。</li> </ul>			
			学校行事や部活動に積極的に参加するよう指導する。	A								
		学習習慣を身につけさせ、早期から「学ぶ」ことへの意欲を高める。	「夢に向かって」を活用し、週1000分の学習時間を確保させ、基礎学力を定着させる。	C	B							
			総合的な探究の時間等で「学ぶ」ことの楽しさを体験させ、進路意識の向上を図る。	B								
		第2学年	周囲と協働する場面を数多く設定し、リーダーシップを発揮できる生徒を育成する。	時間厳守、挨拶、身だしなみ、清掃に対する意識など下級生の模範となるよう指導する。	B					B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な生徒へ、望ましい指導を展開するために、「夢に向かって」を活用していく。</li> <li>・来年度最上級生になる生徒に向けての意識付けに力を入れ、自覚と責任を持たせる。</li> </ul>
				部活動、生徒会活動、行事への積極的な参加を促し、さまざまな立場を経験させる。	B							
	「分かったこと」を「できること」にするために、主体的に学び、粘り強く努力する生徒を育成する。		「夢に向かって」を活用し、週1050分以上の学習時間を習慣化させる。	C	B							
			一人ひとりの進路目標を達成するための学力を保障する。特に、難関大学合格を目指す雰囲気づくりに努める。	B								
第3学年	主体的に学習し、夢に向かい最後まで粘り強くチャレンジする宗高生の育成する。	「夢に向かって」を活用し課外を含む学校中心の学習を確立させ、週1500分以上の自己学習を習慣化させる。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二極化する生徒への「夢に向かって」を使った細かな指導。</li> <li>・進路指導部との連携を図った進路支援。</li> <li>・選択制課外の更なる有効活用の工夫。</li> </ul>						
		進路希望に応じた適切かつ手厚い進路指導を行い、志高く自らの進路実現に努力する姿勢を養う。	A									
	最高学年として、学校を引っ張る自覚と統率力を持った生徒を育成する。	学校行事等により一丸となって取り組むことで、達成感・充実感を感じさせるとともに、リーダーシップの育成を図る。	A	A								
		最高学年としての自覚、礼節ある態度を育成するため、継続的な生徒指導を行う。	A									
研修部	職員の資質向上につながる研修を実施し、キャリアの深化充実に資する。	中高で連携し、今日的な教育課題や生徒理解に関する研修を実施する。	B	B			A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育的効果を上げている授業を公開し、参観者の資質向上を図る。</li> <li>・新規導入されるICT機器の使用に関する研修を計画的に実施する。</li> </ul>				
		新大学入試や新教育課程に向けた研修を実施し、全職員で共通理解を図る。	B									
	主体的に学ぶ生徒を育成する授業実践のために、授業改善に取り組む。	公開授業を通して授業力の向上を図り、生徒の思考力・判断力・表現力を高める。	A	A								
		「新たな学びに」に係る研修の充実により、生徒の主体的・対話的で深い学びを育む。	A									
学校いじめ防止基本方針	全職員の共通理解の下、組織的にいじめを生まない学校風土作りを推進する。	個人面談・教育相談を定期的・計画的に行い関係職員で連携し課題解決に臨む。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校いじめ基本方針に則り、職員・生徒の共通理解の元で取組を進めていく。</li> </ul>						
		定期的なアンケート等を実施し、日常的に生徒の行動の様子を把握する。	A									
	いじめ・不登校対策委員会で定期的に取り組む検討・改善する	校内研修により職員の共通理解を図り、スクールカウンセラー等専門家の意見を交え担任や職員全体への助言等を行うように努める。	A	A								